

Title	大阪大学低温センターだより 総目次(No.121～No.140)
Author(s)	
Citation	大阪大学低温センターだより. 2007, 140, p. 24-29
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/6049
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

大阪大学低温センターだより

総目次 (No.121 ~ 140)

この総目次は、大阪大学低温センターだよりNo.121 (2003年1月号) からNo.140 (2007年10月号) までに掲載された記事全てをまとめたものです。右端の数字は、例えば121 - 1はNo.121の1ページを表します。これ以前の総目次(索引)は、No.20 (1977年10月号) No.30 (1980年4月号) No.41 (1983年1月号) No.61 (1988年1月号) No.80 (1992年10月号) No.100 (1997年10月号) No.120 (2002年10月号) に掲載されています。

なお、所属部局は次に示す略記号で表しています。(理)...理学研究科、(薬)...薬学研究科、(工)...工学研究科、(基)...基礎工学研究科、(産)...産業科学研究所、(蛋)...蛋白質研究所、(レ)...レーザーエネルギー学研究センター、(RI)...ラジオアイソトープ総合センター、(極)...極限科学研究センター/極限量子科学研究センター、(博)...総合学術博物館、(分子熱)...理学研究科附属分子熱力学研究センター、(低)...低温センター。

巻頭言

「有機合成と低温」	植田 育男	122 - 1
アカデミックサロンとしての低温センターだより	徂徠 道夫	123 - 1
40年をふり返って	松尾 隆祐	123 - 2
国立大学法人大阪大学となって	吉野 勝美	126 - 1
見通し	大山 忠司	127 - 1
低温センターに期待する	那須 三郎	131 - 1
舟は向こうの山見て漕げ	吉野 勝美	132 - 1
思い出	小林 祐次	134 - 1
巻頭言	河原崎修三	139 - 1
研究40年と低温センターの思い出	海崎 純男	140 - 1

研究ノート

物質の高温・高圧相の探索と融解曲線	氷と窒素	(基) 小林 融弘	121 - 1
EPRでヘムタンパク質の何をみるか?	活性部位の電子状態と構造・機能との相関	(基) 堀 洋	121 - 7
選択励起分光法による自己形成型CdSeナノ量子ドットの評価		(産) 前橋 兼三	121 - 12
極低温環境下の非接触原子間力顕微鏡を用いた原子スケールでの試料観察と操作		(低) 岡本 憲二	121 - 18
極短および極長の有効光路長を持つ半導体における遠赤外共鳴ファラデー効果		(理) 鈴木 正人・藤井 研一・大山 忠司	122 - 2

シアン処理によるシリコン材料の界面制御と半導体デバイスの高性能化 (産) 高橋 昌男	122 - 8
液液界面反応のその場測定法 (理) 渡會 仁	122 - 15
Electronic Properties of Cryogenic Rare Gas Liquids and Their Applications in Radiation Detectors (工) Werner F. Schmidt・Katsumi Yoshino	122 - 20
量子もつれ合い光子対を用いた量子干渉・回折実験 (基) 枝松 圭一	123 - 3
自己形成量子ドットの波動関数マッピング (工) 森 伸也	123 - 9
STM探針励起による分子ナノワイヤー配線	1次元分子鎖の電子状態と分子励起反応	
..... (工) 赤井 恵・桑原 裕司・青野 正和		124 - 1
パルス磁場勾配NMR法を用いた自己拡散係数測定 (基) 今井 康仁・右手 浩一・北山 辰樹・(理) 佐藤 尚弘	124 - 8
吸着酸素の磁性研究 (極) 小林 達生	124 - 13
遷移金属および希土類元素を添加した室温強磁性窒化物半導体 (産) 朝日 一・周 逸 凱	124 - 18
半導体表面におけるレーザー誘起構造変化と原子放出：現象・機構・応用 (産) 谷村 克己	126 - 2
中性子散乱でみるCeAgSb ₂ の磁性 (理) 荒木 新吾	126 - 7
超高速時間分解赤外分光法による強相関電子系の研究 (基) 芦田 昌明	126 - 11
核磁気共鳴 (NMR) による蛋白質とリガンドとの相互作用の解析 (産) 池上 貴久	127 - 2
液晶分子中のアルキル基の役割 (分子熱) 斎藤 一弥	127 - 8
抗がんリード化合物を海洋天然物に求めて (薬) 青木 俊二	127 - 14
磁気力顕微鏡による電流誘起磁壁移動の直接観察 (基) 山口 明啓・谷川 博信・小野 輝男・那須 三郎	128 - 1
強磁性形状記憶合金における結晶学的ドメインの磁場制御 (工) 福田 隆・掛下 知行・(低) 竹内 徹也	128 - 7
スピン偏極STMによるFeナノ磁石の磁気状態観察 (基) 山崎 篤志	128 - 12
スピングラスにおけるカイラル帯磁率測定の試み (理) 谷口 年史	129 - 1
強相関電子系酸化物ヘテロ構造による室温動作スピントロニクスデバイスの創成 (産) 田中 秀和・川合 知二	129 - 6
スピンカイラリティによる異常ホール効果と永久電流：スピンJosephson効果 (理) 多々良 源	130 - 1
X線を直接検出するCCD (理) 常深 博	130 - 8
レーザー核融合のためのクライオターゲットシステム (レ) 中井 光男・乗松 孝好	131 - 2

カーボンナノチューブ電界効果トランジスタを用いたDNAハイブリダイゼーションの高感度検出 (産) 前橋 兼三・松本 和彦 131 - 11
有機-金属界面への第一原理計算の応用 (産) 森川 良忠 132 - 3
充填スクッテルライト化合物の圧力誘起超伝導 (極) 三宅 厚志・清水 克哉 132 - 7
一次元ナノ空間を利用した新規有機ラジカル	一次元鎖の構築とその物理化学的性質 (博) 小林 広和
三重らせん多糖シゾフィラン水溶液の熱的性質 (理) 宮崎 裕司 132 - 13
ホウ素をドーブしたダイヤモンド超伝導	~ 新奇超伝導の起源 ~ (基) 棕田 秀和
2次元単分子磁石ネットワーク磁性体の低温熱容量測定 (理) 中澤 康浩 133 - 7
ピストンシリンダー型圧力セルを用いた圧力誘起超伝導体の研究 (理) 宍戸 寛明・大貫 惇睦 134 - 5
高感度多周波電子スピン共鳴装置の開発 (極) 八代 晴彦・萩原 政幸 134 - 10
副作用の少ない抗がん剤をめざした血管新生阻害剤の探索 (薬) 青木 俊二 134 - 18
超伝導高勾配磁気分離システムを用いた製紙排水処理システムの開発 (工) 西嶋 茂宏・武田 真一 134 - 23
NMRによる膜作用性分子の構造解析 (理) 松森 信明 136 - 1
結晶反転対称性が破れた重い電子系物質CePt ₃ Siにおける新しい超伝導 (低) 竹内 徹也 136 - 7
一巻きコイル法による超強磁場を用いたGaAs/AlAs超格子のサイクロトロン共鳴測定 (低) 百瀬 英毅 136 - 12
分子を介したスピン依存伝導と巨大磁気抵抗の観測 (基) 白石 誠司 136 - 20
SQUIDプローブ顕微鏡 (基) 糸崎 秀夫 137 - 1
ペロブスカイト型マンガン酸化物の電荷整列相転移 (工) 寺井 智之・掛下 知行 137 - 6
Cu表面上NaCl薄膜の走査トンネル分光測定 (基) 高田 正基 138 - 1
薄膜水の氷への構造変化の低温顕微赤外分光その場観測 (理) 中嶋 悟・石川 兼二・谷 篤史・(力大サ校) 吉田 力矢 138 - 8
電界放射顕微鏡による電子ビーム誘起堆積Pt冷陰極の評価 (極) 村上 勝久・若家富士男・高井 幹夫 138 - 13
電子ドーブ系マンガン酸化物の強磁性物理起源 (産) 柳田 剛・田中 秀和・川合 知二 139 - 2
強磁性超伝導体UGe ₂	~ 強磁性と共存する新奇な超伝導状態 ~ (基) 原田 淳之
顕微光電子分光による有機薄膜表面微少域の電子状態 (理) 宗像 利明 139 - 15
超高集積磁性メモリセル (工) 中谷 亮一・遠藤 恭・山本 雅彦 140 - 3
	 140 - 11

超精密科学研究センター特集号

超精密科学研究センターの使命 原子論的生産技術の創出 遠藤 勝義 125 - 1
超高精度硬X線集光ミラーの製作とナノスペクトロスコーピーへの応用 山村 和也・山内 和人・佐野 泰久・三村 秀和・遠藤 勝義・森 勇藏 125 - 4
数値制御プラズマCVMによる次世代超薄膜SOIウエハの製作 佐野 泰久・山村 和也・遠藤 勝義・森 勇藏 125 - 11
大気圧プラズマCVD法による機能薄膜の超高速形成技術の開発 垣内 弘章・大参 宏昌・安武 潔・芳井 熊安・遠藤 勝義・森 勇藏 125 - 16
超純水のみによる電気化学的加工法の研究 後藤 英和・広瀬喜久治・遠藤 勝義・森 勇藏 125 - 23
強電界下における表面反応の第一原理分子動力学シミュレーション 小野 倫也・広瀬喜久治・遠藤 勝義・森 勇藏 125 - 31

テラヘルツ応用の新展開特集号

超広帯域テラヘルツ波時間領域分光法 (基) 芦田 昌明 135 - 1
銅酸化物高温超伝導体からのテラヘルツ電磁波パルス放射特性 (レ) 村上 博成 135 - 7
生体関連物質のテラヘルツ分光 (産) 法澤 公寛・ミハエル ヘルマン・田畑 仁 135 - 12
テラヘルツ周波数コム分光法 (基) 横山 修子・壁谷 泰宏・実吉 永典・安井 武史・荒木 勉 135 - 18

技術ノート

基礎工学研究科のヘリウム回収ガス管理 (基・RI) 森本正太郎 133 - 12
汚染ガス対策 不純物混入防止のお願い (低) 牧山 博美 133 - 17
強磁場・低温テラヘルツ分光システムの開発 (レ) 長島 健・角倉 久史 135 - 23

談話室

大阪大学総合学術博物館と低温センター (博) 江口 太郎 121 - 22
米国西海岸港湾封鎖とヘリウム危機 (低) 百瀬 英毅 121 - 25
200 l/hヘリウム液化装置稼働開始 (低) 豊中分室 123 - 15
ヘリウム液化装置とともに40余年 (低) 浅井 功 123 - 18
ヘリウム液化に関する恩恵と試練 (基) 棕田 秀和 128 - 17
カーボンナノチューブデバイス研究の最近の展開 (産) 松本 和彦 129 - 14
阪大強磁場を離れるにあたって (極) 金道 浩一 129 - 18
地球磁性鉱物スピネル固溶体 $Fe_{3-x}Ti_xO_4$ の高圧相転移実験 (理) 岡田 卓 130 - 12

ヘリウム液化装置更新について（吹田分室）（低）吹田分室 130 - 14
低温センター便り（理）田島 節子 131 - 16
阪大強磁場を引き継いで（極）萩原 政幸 131 - 19
「大阪に来て思うこと」 お好み焼きと性能指数（基）鈴木 義茂 132 - 18
MgB ₂ 研究裏話（理）増井 孝彦 133 - 23
あのとき選んだ道（理）中島 美帆 134 - 27
ヘリウム液化装置更新完了と稼働状況（低）牧山 博美 137 - 12
大学と研究所（理）宮坂 茂樹 137 - 16
C5酸化損傷DNAの有機合成とその化学的性質（薬）兒玉 哲也 138 - 18
1次元量子スピン系のスピンによる熱伝導（理）竹谷 純一 139 - 20
遍歴する“重い”物理研究者 - An Itinerant “Heavy” Physicist（理）本多 史憲 140 - 17

お知らせ

投稿に関して	121 - 26
投稿のご案内	122 - 34
投稿のご案内	123 - 24
投稿のご案内	124 - 22
投稿のご案内	125 - 36
投稿のご案内	126 - 17
定期購読・送付先変更について	126 - 18
投稿のご案内	127 - 20
定期購読・送付先変更について	127 - 21
投稿のご案内	128 - 20
定期購読・送付先変更について	128 - 21
投稿のご案内	129 - 21
定期購読・送付先変更について	129 - 22
投稿のご案内	130 - 15
定期購読・送付先変更について	130 - 16
吹田分室ヘリウム液化装置更新について（低）吹田分室 131 - 22
投稿のご案内	131 - 23
定期購読・送付先変更について	131 - 24
吹田分室ヘリウム液化装置更新について（3）（低）吹田分室 132 - 20
投稿のご案内	132 - 21
定期購読・送付先変更について	132 - 22
投稿のご案内	133 - 26

定期購読・送付先変更について 133 - 27
投稿のご案内 134 - 30
定期購読・送付先変更について 134 - 31
投稿のご案内 135 - 27
定期購読・送付先変更について 135 - 28
投稿のご案内 136 - 26
定期購読・送付先変更について 136 - 27
投稿のご案内 137 - 19
定期購読・送付先変更について 137 - 20
投稿のご案内 138 - 22
定期購読・送付先変更について 138 - 23
投稿のご案内 139 - 23
定期購読・送付先変更について 139 - 24
投稿のご案内 140 - 22
定期購読・送付先変更について 140 - 23

その他

運営組織（平成15年1月1日現在） 121 - 27
平成14年度寒剤供給状況 122 - 35
運営組織（平成15年7月1日現在） 123 - 23
運営組織（平成16年1月1日現在） 125 - 35
平成15年度寒剤供給状況 126 - 19
運営組織（平成16年4月1日現在） 127 - 19
運営組織（平成17年1月1日現在） 129 - 20
平成16年度寒剤供給状況 130 - 17
運営組織（平成17年7月1日現在） 131 - 21
平成17年度寒剤供給状況 134 - 32
運営組織（平成18年4月1日現在） 135 - 29
運営組織（平成18年4月1日現在） 137 - 21
平成18年度寒剤供給状況 138 - 24
運営組織（平成19年4月1日現在） 139 - 25